

健康な人こそ、がん検診を受けましょう



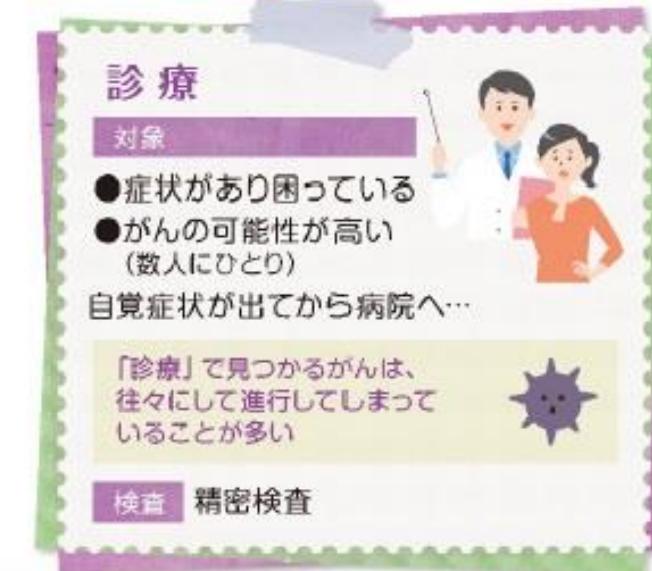
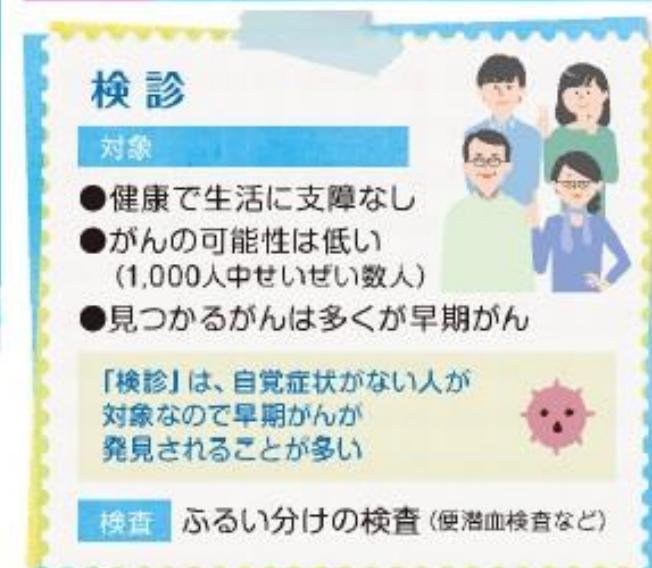
「がん検診」では、「早期がん」つまり症状がでる前のがんを発見し、治療することが重要です。

そのため、対象者は特に自覚症状のない(つまりがんがある可能性がごく低い)、健康な一般の方となります。がん検診とは、このようにがんのリスクの低い沢山の健康な人々のなかから、「検診」というふるいにかけて、がんの疑いのある人を分けるためのシステムです。ふるい分けられたがん疑いの人における精密検査が行われます。これに対し、自覚症状があり、病院を受診した患者の方は、健康な方に比べ、がんの可能性が高く、ふるい分けのための検査では不十分です。そこで、診断を目的として最初から精密検査を用います。

※「検診」の語源のscreening(スクリーニング)という英語は「ふるいにかける」という意味です。



図1 「検診」と「診療」の違いについて



出典 公益財団法人がん研究振興財団「がん検診 2020」